

スタートカリキュラムとは？なぜ、スタートカリキュラム？ ～学びの芽生えと自覚的な学びをつなぐスタートカリキュラム～

スタートカリキュラムとは、小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などでの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのものです。5領域の内容を遊びや生活を通して総合的に学んでいく教育課程等に基づいて実施される幼児期の教育と、各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて実施される児童期の教育。この大きな違いを知り、子どもが新しい学校生活に円滑に移行していくために、このスタートカリキュラムが必要となります。

実施にあたっては、生活科を中心として合科的・関連的な指導を行うことや、弾力的な時間設定を行うことなどが学習指導要領総則に規定されています。学びの芽生えから自覚的な学びへと連続させることを意識し、楽しいことや好きなことに取り組む中で生じた驚きや発見を大切に、学ぶ意欲が高まるように活動を構成することが有効です。

ゼロからのスタート
ではない！

小学校って、どんな
ところかなあ？

小学校って、どんな
ことをするのかなあ？

私にも
できるかなあ？

こんな子どもの思いに
応えることができます！

早く知りたい！
やってみたい！

お兄さん・お姉さん
みたいになりたいなあ。

楽しいといいなあ。

明日も学校へ来たい！

安心

入学してすぐは、期待と不安を抱えています。幼児期に親しんだ活動を取り入れたり、分かりやすく学びやすい環境づくりをしたりすることで、安心して小学校生活をスタートすることができます。こうした安心や楽しさは、小学校での生活の支えとなり、小1プロブレムなどの予防や解決にもつながります。

子どもは、幼稚園・保育所等で、たくさんのことを経験しています。幼児期からの学びと育ちを生かす活動や環境を意図的に設定することで、自信や意欲をもって活動し、自己発揮できるようになります。こうした学習の姿が認められることで、自己肯定感が生まれ、よりよく成長していくことができます。

しなことができた！

成長

自分たちでやるよ！

自立

子どもは幼児期に、「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」につながる経験をしています。これを基盤としながら、生活科を中心としたスタートカリキュラムを編成することで、子ども主体の学習活動を展開することができ、子どもは自分で考え、判断し、行動することを繰り返し、自立に向けて歩んでいきます。それは、小学校6年間の土台となります。